

# P15 公共建築物への地元産国有林材利用に向けた取組

十勝西部森林管理署東大雪支署 白崎 雄飛 河野 来夢

## 背景と目的

北海道森林管理局ではゼロカーボン北海道※等を通じて道産材の需要拡大に努めています。しかしながら道産材は建築材としての利用が低位な状態であることから、十勝西部森林管理署東大雪支署では、管内の役場庁舎等の建替えに合わせて地元産国有林材を安定的に供給し、道産材の利用を促進するとともに、公共建築物での利活用に向けた新得町役場におけるモデルケースを紹介します。

## 内容・成果

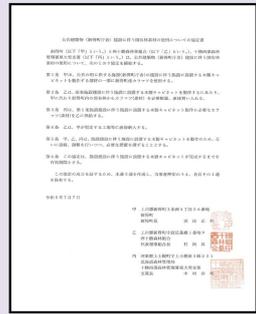
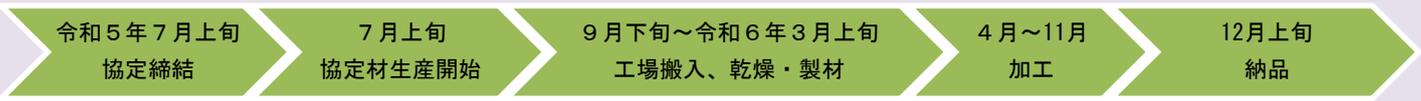
※ゼロカーボン北海道：2050年までに北海道における温室効果ガス排出量を実質ゼロを目指す取組

### 令和5、6年度

当支署では、管内各町との地域林政連絡会議等の場において、国有林材の利用について積極的にPRしているところであり、新得町から庁舎建替えに伴うキャビネット等の備品製作にあたり、国有林で生産されたカラマツを利用したい旨の要望があったことから、素材を供給することとし、関係機関（新得町、森林組合）と木材需給に関する協定を締結しました。

本協定に基づき、採材方法や供給数量など新得町の担当者と打合せを重ね、同年度に当支署が発注する製品生産事業請負において素材の生産を開始し、新庁舎は令和6年9月に竣工、備品は12月に納品となりました。

～納品までのスケジュール～



協定書



生産中のカラマツ  
生産地：新得町屈足地区岩松国有林  
供給材：カラマツ一般材  
263本 64.133m<sup>3</sup>  
採材仕様：長級2.40m 径級28～42cm



記載台（3台）



キャビネット（142台）

### 令和7年度

11月、新得町で開催された十勝地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟の合同研修会は、管内15市町村の議会議員70名が出席。役場の他、町内の地域材利用施設を視察、国有林材利用についても紹介があり、公共建築物での利活用について理解を深めました。



視察の様子



研修会の様子

4月、上士幌町から庁舎改修事業において国有林で生産されたトドマツを仕上げ材等として利用したい旨の要望があり、新得町における国有林材供給のモデルケースを踏まえ、協定を締結。

今後、製品生産事業請負において、約1,300m<sup>3</sup>の供給を予定しています。



上士幌町との打合せの様子

## 今後の展開

新得町における地元産国有林材の供給事例を踏まえ、管内公共建築物新改築に係る情報収集、支署からの適時適切な情報提供を行い、国有林材の利活用を働きかけていくこととしています。